ましゅまろみたいな ましゅまる。

azufeeling

それはある日突然訪れた。我が家に真っ白な子犬がやって来た。
動物が苦手な母の影響で、人生で一度も、ましてやかなり手がかかるとされる“犬”を
自分の生活に迎えるなんて想像もしていなかった。

さて。初めての子犬を迎え早数ヶ月。単身赴任中の父親から、上京した妹に弟、お正月の実家帰省でやっと我が家は全員が子犬と顔を合わせることができた。母が動物嫌いの為、今まで全く動物とは無縁の生活を送ってきた我が家。そんな我が家に颯爽とあらわれすっかり馴染んでいる子犬に、家族皆驚きを隠せない様子だった。全くもって人見知りをしない子犬は父にも弟にも全力ダッシュで駆け寄って戯れている。そしてふと気付いたことがある。私はいつの間にか自然と父に話しかけていたのだ。我に返って一気に気まずさが押し寄せる。けれど心の中でこう思った。「い、今がチャンス!!　これを逃したら一生喋れないぞ、私!!」

恥ずかしながら私はいい歳していまだに父と確執があり、中学時代からほとんどと言っていいほど会話したことがない。真面目で勤勉、堅物で不器用な父は、出来が悪く好き勝手な私の生き方について到底理解に苦しんだろうと安易に想像できる。お互いに分かり合えず、歩み寄れず、なにより経ちすぎてしまった時間がさらに「今更感」を醸し出す。そんな父と娘の数十年ぶりのまともな会話（？）がこれ。

「パパ、可愛いよ。撫でてみる？」

「……あ、あぁ。おぉ。生きてる…」

なんとも間抜けで滑稽な、他愛もない、普通の、まるで、家族みたいな会話だった。私はなんだか可笑しくなった。

「ましゅまるってゆうんだ」

「…。そうか」（父、無言でなでなで）

（私、勇気を出して会話を続ける）

「パパ、犬、好きだったの？」

「…。いや、どっちかってゆうとネコ派」

「（え、そうなの。そんなん初めて知った）」

会話終了。そそくさと二階へ退散。たったこれだけの会話だったが、私は、“一生かかっても無理なことリスト”の一番上の項目をクリアした。そう、それは、「父と会話すること」だった。

その夜ベッドでウトウトしていると、隣の和室で寝ようと階段を上がってきた父に子犬が駆け寄って行った。耳を澄ませていると、どうやら父が子犬に話しかけているようだった。

「……。かわいいなぁ」

優しい声だった。私はいろいろと父を誤解していたかもしれない。少しの達成感と幸福感を胸に、その日はなかなか寝付けなかった。

お正月も終わり、家族は皆各々の生活に戻って行った。単身赴任先に戻った父から、後日母にメールが来たらしい。――「ましゅまるの写真送って」

数日後、最近水彩画にハマり出した父が子犬の絵を描いて送ってきたらしい。母は楽しそうに私に話してくれた。飼い主である私が言うのもなんだが、ましゅまるは我が家にとても似合っていると思う。と言うか、まるでずっと前から家族になることが決まっていた様な、我が家の最後のピースがぴったりハマった様な。勝手にそんな気がしている。

ただそこにいるだけで、幸せを分けてくれる。

今日もふわふわの真っ白な背中を撫でながら話しかける。すっかり伸びた毛先と、大きくなった身体。お願いだから、ゆっくり歳をとっておくれよ。ね。ましゅまる。

azufeeling … 1989年生まれ, 長野県出身. 両親の影響で幼少期より洋楽を聴き, ピアノやドラムなど楽器に触れる. 15歳でボーカルに転身. 自ら作詞作曲を手がける. 2016年, 映画の主題歌を含むファーストアルバムでメジャーデビュー（AZUSA WATARI名義）. 2018年, 単身渡欧. 語学を学びながら各地のアーティストとの交流を通じ制作活動に邁進. 2019年秋, アーティストネームを渡梓（AZUSA WATARI）からazufeelingに改名. 現在も長野県を拠点に国内外で活動中.
web … http://www.azusawatari.com　　azufeeling 楽曲 … https://music.apple.com/jp/artist/azufeeling/1484307116